

## ごあいさつ

滋賀県芸術文化祭会長

滋賀県知事 三日月 大造



滋賀県芸術文化祭は、今年で50回の節目を迎えました。その主催事業の中で、最も歴史の長い滋賀県美術展覧会は、おかげ様で74回目の開催を数えます。この間、美術を愛する多くの方々の創作活動の発表の場として、また、優れた作品に触れていただく機会として、社会に文化芸術を深く浸透させる役割を担ってまいりました。皆様から「県展」の愛称で親しまれ、

優れた作品を発表する場として定着しておりますのも、ひとえに本県美術関係者の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

近年は、高校生をはじめとする若い作家から新鮮な感覚にあふれた意欲的な作品が数多く出品されていることを大変うれしく思います。今後も様々な世代の方々が挑戦したいと思えるような公募展であり続けるよう、本県としてもさらに力を尽くしてまいります。会期中には、作品の写真撮影を一定の条件のもとで行っていただけますので、この機会にSNS等で発信いただき、本展を介して多くの方々と交流していただくきっかけとなりましたら幸いです。

なお、本展覧会は滋賀県立近代美術館の改修に伴い、昨年と同様、滋賀県立文化産業交流会館での開催となります。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために様々な文化事業が中止となり、社会全体がかつてない閉塞感に覆われる中、本展の開催が多くの方に新たな刺激や感動を与え、芸術の力で人々の心を解放してくれることを祈念しています。皆様からの滋賀県美術展覧会へのたくさんの御出品をよろしくお願い申し上げます。

## 今こそ精一杯の表現を!

第50回滋賀県芸術文化祭実行委員会

美術部門委員会 委員長 神田 浩



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、未曾有の社会状況となりました。文化・芸術の分野でも次々と展覧会や公演が中止され、極めて厳しい状況に陥りました。私自身、筆を持っていても気持ちに乗らないと感じる日々です。でも、このような状況だからこそ踏んばらねばならないと言いきかせています。ドイツのモニカ・グリュッタース文化相は「アーティストは必要不可欠である

だけでなく、生命維持に必要なのだ」と声明を出され、手厚い補償の措置をスピーディーに講じられました。彼我の差を痛感しますが、「文化・芸術が生命維持に必要」であることは私達も同じはずです。

幸いにして今年も滋賀県美術展覧会の開催をめざす運びとなりました。感染防止策を講じるため出品者の皆様にも例年とは異なるお願いもあるかと存じますが、滋賀県をはじめとする関係各位の熱い思いで開催を目指すに到ったことを意気に感じ、ぜひ多くの力作をご出品頂きますようお願い申し上げます。

広く県民の皆様が芸術は「生命維持に必要」なものであることを訴える気概を持って、今年の「県展」を新たなスタートにしましょう!

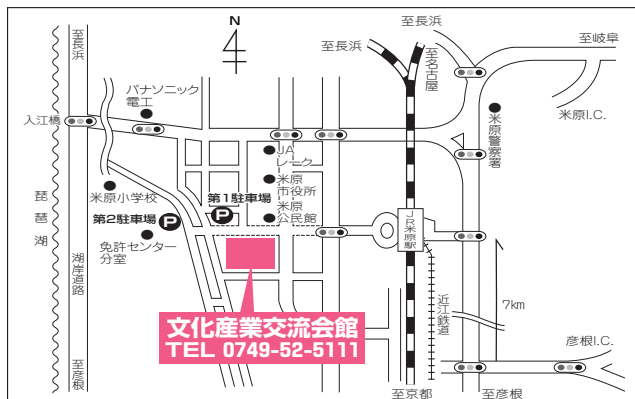
(2020年6月記)

## 第74回滋賀県美術展覧会

会期 令和2年11月12日(木)～11月18日(水)  
(※会期中無休) 入場無料 [開場時間] 9時～17時

作品の搬入は、草津と米原の2会場で行います。(※但し、草津は平面と書のみ)

会場 滋賀県立文化産業交流会館



新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、展覧会の中止等もございますので、作品の搬入・返却および鑑賞にあたっては、びわ湖芸術文化財団のホームページなどで事前の確認をお願いいたします。

なお、ご来場の際には、マスク着用など咳エチケットにご配慮ください。体調がすぐれないとお感じの方は、ご来場をお控えください。

審査員による講評会

参加無料 ※作品の画像で講評会を行います。

※入賞者以外の方は要予約 11月12日より電話受付開始。先着順。TEL 077-523-7146

◇11月15日(日)

〈書〉10時30分～ / 〈平面〉14時～

於：滋賀県立文化産業交流会館 第1会議室

〈工芸〉10時30分～ / 〈立体〉14時～

於：滋賀県立文化産業交流会館 第2会議室

作品募集要項をご希望の方は、

(公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部

TEL 077-523-7146 までご連絡ください。

# 第73回滋賀県美術展覧会 受賞者のコメント

## 平面



「蛭気楼」

### 芸術文化祭賞受賞 森吉 恵一

この度、芸術文化祭賞という大きな賞を頂き、大変嬉しく思います。誠にありがとうございました。今回の作品は日常の何気ない人物の流れの中で、サラリーマン風の一群とベンチで座っているおじさんを描きました。バック（景色）もベンチもあえて描かず、人物だけを際立たせたいと考えました。その中にオレンジノというジュースを置くことで物語が進行するようで…。誰もが見過ごす情景だからこそ、そこで立ち止まって日常の些細な変化やすき間を見つめ描き留めて置きたいと思うのです。当たり前と思っている情景の中にある何気ない違和感、周囲の雰囲気などを心に留めたいと思っています。

最後に、このような栄誉は自分には縁のないものと思っていましたので、これから制作活動が続いていく中で、背中を押してくれるような、貴重な体験になりました。この気持ちを忘れず、これからも新しいことへのチャレンジそして良い作品を生み出し続けていきたいです。

## 立体



「風ガハコブモノ(一)」

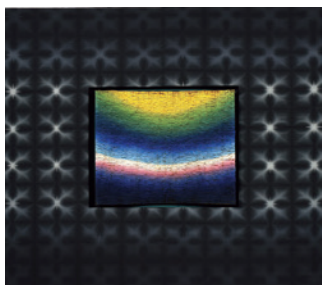
### 芸術文化祭賞受賞 高崎 敏和

この度、滋賀県美術展覧会 立体の部で芸術文化祭賞を頂き、誠にありがとうございました。私はいつも「彫刻とは何か」を自問しながら首像や全身像などの具象作品を制作しています。最近では人体の基本を押さえながら、人が自然の中で感じる感覚、具体的には光や風などを表現できないかと挑戦しています。

ただ彫塑制作の場合、ハードルとなってくるのが、型取り(石膏)と流し込みの作業です。原型は粘土で作りますが、作品の保管や移動のために他の材料、石膏や樹脂などに置き換える必要があります。完成までの作業にはいろんな工程があるので時間や技術を伴います。

最後になりますが、この受賞を機会に更に自分の作品が理想に近づきますように、地道に努力していきたいと思っています。また、一人でも多くの方が彫刻に接し理解を示して頂けると有り難いです。

## 工芸



「悠遠」

### 芸術文化祭賞受賞 木村 隆男

この度、四度目の芸術文化祭賞を頂き誠にありがとうございます。15歳から絞り染の職人として仕事ひと筋に働いていましたが、43歳になった頃これまでの半生を振り返って、このまま一生を終える、それでいいのか、せめて何か生きてきた証を残したいと思いました。それから独学で作品を染め始め、いろんな公募展に出品しましたが、13度続けて選外。7年目ようやく「染アート」展に初入選、その時の喜びはひとしおでした。

絞り染めは、簡単なものは生地をつまんで糸や輪ゴムでくるだけでも出来ます。その反面、やればやる程奥が深く、イメージ通りに染まったか糸を解くまで分かりません。陶芸と共通した難しさ面白さがあります。私は美術展や工芸展を見て感動した所を参考にしています。気持はいつも新人のつもりでチャレンジ、個性を生かした染を、残された日々を大切に、生かされていることに感謝して頑張っていきます。

## 書



「風舞」

### 芸術文化祭賞受賞 松林 葵紅

この度は、歴史ある芸術文化祭賞という大変大きな賞を頂き、驚きと嬉しさで一杯です。これも偏に今まで熱心にご指導いただきました先生方をはじめアドバイスを頂いた先輩、教室の和やかな雰囲気のお陰と、感謝の気持ちでいっぱいです。改めて受賞の実感が湧いてきました。また、家族の協力にも感謝しています。

今回の作品は「松の影が風にゆれる所に鶴が舞いつつ帰ってくる」風景を想像しながら書きました。県展への出品で7文字の作品は初めてです。先生より「舞の表現と線を大切に」と助言いただき、最後に書いた一枚を選んで頂きました。審査員の中村立強先生からは、「作品の構想を持ち、その構想を情熱をもって具体化している。」と身に余るご講評をいただきました。

今回の受賞の気持ちを忘れず、書に向かう楽しさを味わいたいと思います。ありがとうございました。

## 第73回 出品概要

### ① 出品点数

総数	452点 (72回 471点)
(内訳)	平面 241点 ( // 243点) 工芸 51点 ( // 49点)
	立体 22点 ( // 28点) 書 138点 ( // 151点)

### ③ 最年少・最年長

①出品者	最年少 15歳(6名)	最年長 92歳(1名)
②入賞者	// 16歳(1名)	// 76歳(2名)

### ② 入選作品数

総数	305点 (うち芸術文化祭賞 4点、金賞 4点、特選 26点、佳作 19点)
(内訳)	平面 121点 ( // // 1点 // 1点 // 13点 // 6点)
	立体 19点 ( // // 1点 // 1点 // 3点 // 3点)
	工芸 40点 ( // // 1点 // 1点 // 3点 // 3点)
	書 125点 ( // // 1点 // 1点 // 7点 // 7点)



# 第73回滋賀県美術展覧会 入賞者一覧

平面

特選



「秋色」  
三浦淑子  
金賞



「朽ちゆく」  
大橋誠治  
滋賀県美術協会理事長賞



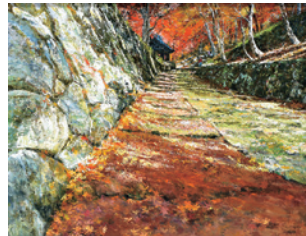
「Your True Colors」  
木南信之  
びわ湖芸術文化財団  
理事長賞



「EVERYDAY LIFE」  
甲元和登  
滋賀県議会議長賞



「心の中で」  
中村文乃  
NHK大津放送局長賞



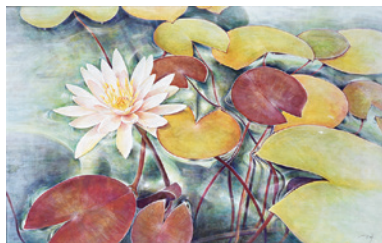
「秋の日」  
芳井秀子  
BBCびわ湖放送賞



「残景」  
細川望  
滋賀県造形集団奨励賞



「甘美な記憶」  
中野李保  
読売新聞社賞



「睡蓮」  
浅野留美  
毎日新聞社賞



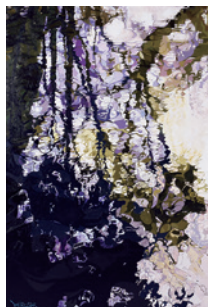
「追憶」  
仲西裕昭  
中日新聞社賞



「新生児を抱く」  
川嶋富美子  
朝日新聞社賞



「つながり」  
浜浦敦子  
公益財団法人  
木下美術館賞



「揺らめき」  
植村博志



「夢想」  
瀬戸口園子

# 立体

特選



「太古より」  
川合 徹  
金賞



「夏めくとき」  
山田恵美・山下侑那  
田村唯月  
滋賀県美術協会理事長賞  
滋賀県造形集団奨励賞



「帽子 - 夏 -」  
岩崎高志  
KBS京都賞



「頑愚」  
三原敏夫

# 工芸

特選



「三段重匣 (昔々の物語)」  
末岡京子  
金賞



「Planet」  
角野有加  
滋賀県美術協会理事長賞



「黙想」  
廣岡秀樹  
時事通信社賞



「桂離宮の庭石に」  
藤井誠治  
京都新聞賞

# 書

特選

高井敦史  
金賞



岩本三郎  
滋賀県美術協会理事長賞



猪飼朱実  
滋賀県教育委員会教育長賞



直江梨華  
産経新聞社賞



野瀬晴風  
共同通信社賞



松田春濤  
「登高」



崎山栄子  
「土器」



今居青桃  
エフエム滋賀賞

